



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中央アジア関連研究文献リスト2023
Citation	日本中央アジア学会報, 20, 101-105
Issue Date	2024-11-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98902
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	other
File Information	JB20_019list.pdf



研究文献リスト

中央アジア関連研究文献リスト2023

本リストは、2023年(1月～12月)に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆、旧ソ連領のムスリム地域、およびその周辺地域に関する学術文献(学術的映像作品、データベースを含む)をリストアップしたものである(理科系のものを除く)。原則的に、国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作を中心とし、エッセイや辞典項目等は除外した。ただし、本学会会員の著作については、海外刊行のものも一部含まれる。なお、各文献の副題はコロンのつなぎで統一した。

書籍

■ 荒川正晴、弘末雅士責任編集『岩波講座世界歴史10 モンゴル帝国と海域世界 12～14世紀』

岩波書店(3,200円+税)

- ・ 四日市康博「ユーラシア・海域世界の東西交流におけるモンゴル・インパクト」
- ・ 松井太「トルキスタン・トルコ系諸集団とモンゴル帝国」
- ・ 向正樹「モンゴル覇権期のディアスポラ」
- ・ 高橋英海「中央アジア・東アジアの東シリア教会：モンゴル時代を中心に」
- ・ 森達也「ユーラシア世界の中国陶磁流通」
- ・ 川口琢司「カラチュの時代：ティムール朝を中心に」

などを所収

■ 磯貝真澄・帯谷知可編『中央ユーラシアの女性・結婚・家庭：歴史から現在をみる』(アジア環太平洋研究叢書6) 国際書院(3,500円+税)

- ・ 帯谷知可「忘却の彼方のムスリム女性解放論：オリガ・レベヂェヴァを読み解く」
- ・ 佐々木紳「近代オスマン帝国における女性作家の誕生：ファトマ・アリエとハイブリッドな評伝の虚実」
- ・ 磯貝真澄「ロシア帝国末期ヴォルガ・ウラル地域のムスリム知識人とイスラーム宗務行



政：ムスリム家族規範論からみえる結びつき」

- 菊田悠「社会問題としてのトイ(祝宴)：ウズベキスタン、ミルジヨエフ大統領によるトイ規制法」
- 藤本透子「結婚をめぐる交渉：中央ユーラシア草原地帯におけるカザフ社会の変容」
- 宗野ふもと「ウズベキスタンの女性雑誌『サオダト』(幸福)：1972～1974年の記事目録」などを所収

■今村薫編『中央アジア牧畜社会：人・動物・交錯・移動』京都大学学術出版会 (3,600円＋税)

- 今村薫「中央アジアにおける家畜化の歴史生態学的展開」
- 久米正吾、新井才二「天山山脈の最初の牧畜民」
- 塩谷哲史「ラクダと都市が支えた草原の移動：18～19世紀の中央アジアとロシア」
- 今村薫「カザフスタンにおける家畜ラクダ2種とそれらのハイブリッド作出」
- 児玉香菜子「中国人民公社期におけるラクダ飼養：内モンゴル自治区エゼネー旗の事例から」
- ソロンガ「ラクダの去勢：中国内モンゴル自治区アラシャー右旗の事例から」
- 廣田千恵子「山地環境下における牧畜と季節移動：21世紀モンゴル国カザフ牧畜民を事例として」
- 地田徹朗「アラル海災害からの「復興」における牧畜の役割：小アラル海地域社会の災害適応とレジリエンス」
- 星野仏方「乾燥・半乾燥地における人と家畜」などを所収

■小松久男(編者代表)、梅村坦・坂井弘紀・林俊雄・前田弘毅・松田孝一(編)『中央ユーラシア文化事典』丸善出版 (22,000円＋税)

■ダダバエフ、ティムール、園田茂人編『ウズベク移民と日本社会』東京大学出版会 (6,200円＋税)

■中屋昌子『信仰と越境のウイグル：「進歩」の共和国から復興のイスラム共同体へ』文理閣 (2,500円＋税)

■野田仁編『近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照』(Studia culturae Islamicae no. 119／MEIS Series no. 29) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (非売品)

- 長峰博之「ジョチ・ウルス後裔政権史料は何を参照し、ジョチ・ウルス再編をいかに認識したのか？」
- Brophy, David, “Between Hagiography and World History: Muḥammad Amin Kashghari’s *Asar al-Futuh*”
- 小沼孝博「ムッラー・ムーサー・サイラーミーの史的探求：『ハミード史』序論の検討から」

- 塩谷哲史「19世紀ヒヴァ・ハン国の年代記」
 - 近藤信彰「近代イランにおけるテュルク的過去の参照」
 - 木村暁「トルキスタンを歴史化する：ロシア統治と『トルキスタン史』」
 - 秋山徹「遊牧英雄の黄昏、民族英雄の黎明：民族創成過程における対露協力者の位置づけをめぐる」
 - 野田仁「近代カザフ人の歴史叙述：アルタイの知識人アクトの視線」
 - 小野亮介「トルコ共和国国章制定の議論から見るゼキ・ヴェリディ・トガンの過去の参照と歴史観」
 - 磯貝真澄「ソ連初期のムスリム知識人による自己語り：1928年のハサンアター・ガベシーの自伝的回想を読む」
などを所収
- 吉村大樹、グリエヴァ・カマラ『2022年度言語研修「アゼルバイジャン語」研修テキスト1 アゼルバイジャン語文法教本』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（非売品）
- 吉村大樹、アイダエヴァ・ザリファ『2022年度言語研修「アゼルバイジャン語」研修テキスト2 アゼルバイジャン語会話・聴解トレーニングブック』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（非売品）

論文

- 諫早庸一「イスラーム経由コペルニクス行き：ユダヤ教徒がつなぐ同心球天文学の道」『ユリイカ』55(1), 224–232頁
- 諫早庸一「グローバルに文化を問うこと：作図についてモンゴル帝国期東西天文学交流を例に」縄田雄二・小山憲司編『グローバル文化史の試み』中央大学出版部, 37–70頁
- ISAHAYA Yoichi, “기후변화가 제국을 흔들었을까? 1270~80년대 몽골 사례 연구 / Did the Climate Change Shake the Empire? The Case of the Mongols in the 1270s and '80s,” *생태환경과 역사 / Journal of Ecological and Environmental History* 10, pp. 5–40, <https://doi.org/10.23202/jeeh.2023..10.001>
- 諫早庸一「ハンの巡行：ジョチ・ウルスにおける〈移動〉のポリティクス」『スラヴ研究』70, 105–134頁
- ISAHAYA Yoichi, “Marāgha Ceased to Function: The Tūsī Family’s Intellectual Network and Īl-Khānīd Political Itinerance,” *Crossroads: An Interdisciplinary Journal of Asian Interactions* 22, pp. 1–24, <https://doi.org/10.1163/26662523-bja10018>
- Уяма Томохико. Между эссенциализмом и многоидентичностью: Центральная Азия как

- часть Востока, Юга и мира // Социологическое обозрение. Том 22, № 1. С. 61–71, <http://doi.org/10.17323/1728-192X-2023-1-61-71>
- 宇山智彦「多方面外交を維持・拡大する中央アジア：分断ではなく競存を求める中小国」『国際問題』714, 48–58頁
 - ONUMA Takahiro, “Manchu Words Referring to the Qing Emperor: han and ejen,” *Saksaha: A Journal of Manchu Studies* 12, pp. 61–72, <https://doi.org/10.3998/saksaha.4214>
 - 帯谷知可「ウズベキスタン：ヴェールを捨てたその後に」長沢栄治監修、岡真理・後藤絵美編『記憶と記録にみる女性たちと百年』（イスラーム・ジェンダー・スタディーズ5）明石書店, 171–184頁
 - 河原弥生「19世紀フェルガナ盆地におけるミールザーたちの系譜書：コーカンド・ハーンの母方の系譜として」『東洋文化』103, 205–228頁
 - 小松久男「韃靼の志士：イスラーム世界と日本」『民族解放の夢』（アジア人物史10）集英社, 353–417頁
 - 小松久男「中央ユーラシアの新聞・雑誌史料：時代の思潮を読む」佐々木紳編著『歴史の蹊、史料の杜：史資料体験が開く日本史・世界史の扉』風間書房, 197–217頁
 - 小松久男「宗教復興のダイナミズム：近現代中央アジアの政治と宗教」長沢栄治・後藤絵美編『東大塾 現代イスラーム講義』東京大学出版会, 102–125頁
 - 小松久男「トルキスタンの地歴教科書（タシュケント、1918年）を読む」『日本中央アジア学会報』18, 1–25頁
 - KOMATSU Hisao, “XX. yüzyıl başlarında Türkistan’da kolektif kimlik arayış çabaları,” Akile Gürsoy, haz., “*Kültürün Mimarı*” Bozkurt Güvenç’e Armağan, Ankara: Nobel, pp. 132–145
 - 坂井弘紀「中央アジアの神話」『神話世界と古代帝国』（アジア人物史1）集英社, 110–129頁
 - 坂井弘紀「敵はロシア：中央ユーラシア・テュルクの伝承に現れるロシア」『大学表現学部紀要』23, 13–32頁
 - 新免康「中国新疆における「文人」としての「少数民族」政治エリート：セイピディン・エズィズィを事例として」『中央大学アジア史研究』47, 224–201頁
 - 新免康「近代史の文脈からみた現代新疆の少数民族政治エリート：熊倉潤著『民族自決と民族団結：ソ連と中国の民族エリート』」『アジア経済』64 (3), 61–74頁
 - SHIOYA Akifumi, “Shi’ite Captive Release Negotiations in Khiva: A Nexus of Khivan-Iranian and Anglo-Russian Relations,” *Acta Slavica Iaponica* 43, pp. 73–93
 - 田中周「GCA をめぐる中国の反テロ戦略：アフガニスタンを事例として」川島真・鈴木絢女・小泉悠編著、池内恵監修『ユーラシアの自画像：「米中対立／新冷戦」論の死角』

PHP 研究所, 371–388 頁

- 地田徹朗「ロシア＝ウクライナ戦争とカザフスタン：ロシアのウクライナ侵攻には反対も、しかし…」『Artes Mundi』8, 77–86 頁
- 長峰博之「サライはどこに？：ジョチ・ウルの「首都」サライをめぐる近年の研究動向によせて」『西南アジア研究』95, 76–100 頁
- 長峰博之「17世紀末ヴォルガ・ウラル地方史料『ダフタリ・チンギズ・ナーマ』の4写本：ロンドン、パリ、ベルリン、エディンバラ」『日本中央アジア学会報』19, 1–23 頁
- Нагаминэ Хироюки. Тукай-Тимуриды, Шибаниды и Крымское ханство в сочинении Кадыр Али-бека: как позднеджучидские источники представляли реорганизацию Джучиева Улуса? // Золотоордынское обозрение. Том 11, № 2, С. 349–370
- NAGAMINE Hiroyuki, “Jadwal in the Paris Manuscript of the Muntakhab al-Tawārīkh-i Mu‘īnī and Topkapı Sarayı Müzesi Kütüphanesi, B. 411,” *MUSEUM.KZ* 1(2), pp. 31–42
- 野田仁「多様なひとびとをつなぐ翻訳：イスラームの各地への展開と知の伝達」黒木英充・後藤絵美編『イスラーム信頼学へのいざない』（イスラームからつなぐ1）東京大学出版会, 61–81 頁
- 野田仁「1916年前後の中央アジアにおけるムスリム・ネットワーク：新疆への視線」『東洋史研究』82 (2), 1–33 頁
- パチカロフ、アレクサンドル V、長峰博之（翻訳・注釈）「概説 ゾロタヤ・オルダの首都、旧サライと新サライの歴史（翻訳・注釈）」『小山工業高等専門学校研究紀要』56, 52–62 頁
- 堀川徹「ティムール帝国とイスラーム都市文化」姜尚中（総監修）『アジア人物史 6 ポスト・モンゴル時代の陸と海』集英社, 3–70 頁
- 宮崎千穂「タシケント市におけるロシア帝国の梅毒・DV をめぐる医療警察的監督：軍隊・非感染証明・接触者調査」『ロシア史研究』110, 3–30 頁
- Lee Jinhye, “Should Korean Diaspora Evacuees from Ukraine be Considered “Refugees” or “Ethnic Returnees” in South Korea?” *Ritsumeikan Journal of International Relations and Area Studies* 57, pp. 23–42
- Lee Jinhye, “Why do Diasporas Re-Emigrate to their Historical “Homelands”? A Case Study of Koryo Saram’s “Return” from Post-Soviet Uzbekistan to South Korea,” *Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University* 5, pp. 51–65